

教育目標「自立と社会参加」の具現化

自立とは自分でやりたいことを見つけて自分で実行すること、すなわち「自己実現」のこと。社会参加とは、社会に参加させてもらうことでなく、「社会貢献」すること。

1 生徒一人一人のキャリア実態に即した個別の指導計画の作成

当校は、高等部単独の知的障害のある生徒を主な対象とした特別支援学校である。入学した生徒を指導できる期間はわずか3か年しかない。しかも、生徒は新潟市の西部を中心とした様々な中学校や特別支援学校の中学部から入学してくるので、それまでに積み上げてきたキャリア実態に大きな差がある。生活単元学習や作業学習等で働く意識を十分高めてきた生徒もいれば、高等学校の受験に向けて教科の補充学習を中心に行ってきた生徒もいることであろう。

そのような実態の中、一人一人の夢の実現に向け、3年後の生活を見据えて実態を洗い出し、その生徒にあった指導計画を作成してほしい。

2 自立のための基礎基本の育成と個性の伸張

障害や障害がおよぼす行動上の特性を個性と捉えることもできるが、個性とは「身の自立や基本的生活習慣の確立」の上において発揮されるものである。例えばパソコンの操作が得意でも、挨拶がきちんとできなくては職場や社会では通用しない。挨拶をしないことが個性だなどとは言えないのである。わずか3年間で生徒を社会に送り出す高等部単独の特別支援学校であれば当然のことである。

身の自立や基本的生活習慣に関する指導内容は粘り強く繰り返し指導し、発達段階や障害の特性に応じて確実に身に付けさせるようにする。同時に一人一人の個性の伸張を目指し、自信をもたせて自己肯定感と自己有用感が湧き上がるような指導を実践してほしい。

3 経験の広がりとの質の向上

学校というところは、生徒にとって「安心できる・安全な・安定した気持ちになれる」場所ではなくてはならない。障害のある生徒にとってはなおさらである。常に細心の注意を払って教育活動を推進していかなくてはならない。

しかしながら、生徒を学校や家庭の中で囲っておくことで社会性が身に付くとはとうてい考えられない。生徒が体験したことがないような刺激、困難、迷い、失敗こそが成長を促す。

そのためには入念な事前の計画と安全の確保が重要であり、自然と触れ合い、公共の交通機関等の社会資源を積極的に活用し、校外学習や交流及び共同学習を推進してほしい。学校は生徒と教師が、生徒同士が、お互いに刺激を与え合う場である。